

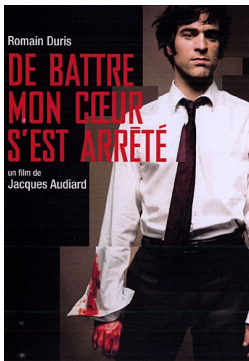


Les Ressources du mois

- Décembre 2010 -

Le film coup de cœur

De battre mon cœur s'est arrêté, Jacques Audiard, 2005



“Un prophète”（2009年度カンヌ映画祭審査員特別グランプリ）の10月公開に伴い、今フランスで最も注目すべきオディール監督のもう一つの傑作を紹介する。アレクサンドル・デブラによる素晴らしいオリジナルサウンドに加え、こだわりのポップ・ロックの数々が散りばめられた、エネルギーで緊迫感にあふれた演出に、円熟の域に達し、乗りに乗っているロマン・デュリスが見事に応えている。すごいとしか言いようのない『リード・マイ・リップス』を経て、2005年のオディール監督作品4作目は、力強くインスピレーション豊かな、大作である。

A écouter à tout prix !

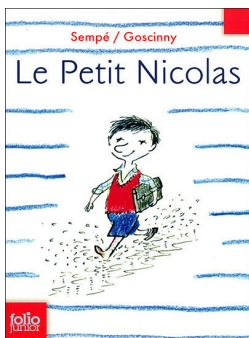
Robots après tout, Philippe Katerine, 2005



アシモフのロボット関連作品とクラフトワークの機械的リズムにインスパイアされ、ビョークの男性版的ダンディ・ポップな何でも屋は、エレクトロ・シャンソンなるものを作りだした。扇情的な歌詞、イヨネスコの影響、ロボットの合唱、ゴンザレスのキーボード、マリーヌ・ル・ベンと出会う悪夢...。この緩やかな狂気には、はまります！オリジナリティーが好きですか？なら、これしかない！

Pour les petits (et les grands...)

Le Petit Nicolas, René Goscinny, 1959



プチ・ニコラとその仲間たちは、フランスではすでにストック・キャラクターとなっている（アニヤンのような奴は、誰でも知っているし、アルセストは言うまでもない！）。

プチ・ニコラが子供だけでなく大人まで楽しませ続けて早や50年。11月にはそのオマージュとして映画が公開された（出演：ヴァレリー・ルメルシエ、カド・メラッド、サンドリーヌ・キベルラン他）。良い機会なので、ニコラの冒険を（もう）一度、試してみてもは？とても読みやすいので、ぜひ。

L'Expo du Mois

ピエール・スーラージュ (Pierre SOULAGE)

これからパリに行こうとしている人にお勧めなのが、2010年3月8日までポンピドゥー・センターで開催されているピエール・スーラージュの回顧展。

ピエール・スーラージュは1919年、アヴェロン県ロデスに生まれた。現在90歳。最も偉大なフランスの抽象芸術家と言えるだろう。その作品は黒を基調とし、そこに現れる光の効果を追求している。

もっと知りたい？ 展覧会に行く人は別として、下記の URL からインターネットのサイトにアクセスできる。

<http://www.centrepompidou.fr/Pompidou/Manifs.nsf/AllExpositions>

彼の生まれた町に、記念美術館を建設中だが、そのオープンを待ちきれない人は、コンクにあるロマネスク様式の修道院（アヴェロンにある世界遺産でもある）に彼の制作したステンドグラスを見に行くのもいいかもしれない。また、エロー県モンペリエにあるファール博物館には、スーラージュ作品の展示室が常設されている。

C'est bientôt Noël !!!

アルザスのクリスマス

こんにちは！

私は 札幌アリアンス・フランセーズのアルザス人、ブリジットです。アルザスは、フランス東部ライン川沿いに南北に長く伸びるフランスの地方です。

サパン・ド・ノエル（クリスマスツリー）はもともとアルザスが発祥の地と言われており、16世紀頃から続いていることが確認されています。マルシェ・ド・ノエル（クリスマス・マーケット）は中世にはすでに開かれていたようで、季節色、和気あいあいとした和やかな雰囲気、美味しそうなにおい...



全部は思い出せませんが、マルシェでは、ホットワインやクリスマス・ビール、シユークルート、タルト・フランベ、ソーセージ、“ブレデル（小さいお菓子）”など、アルザス地方の特産品を味わうことができます。また、自分なりのサパン・ド・ノエルの飾りつけを色々見つけられるのも魅力です。

今年は、ストラスブールのマルシェ・ド・ノエルが、12月12日～25日に東京国際フォーラムに出現。15ほどの木造りのシャレー（小屋）に約30人の職人さんたちが勢揃いするそうですよ。